

## 主体的・対話的で深い学びを実現するために

### 昨年度の課題と方針

- ◆ 1つの研究授業で考えるのではなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通した視点で授業を改善していくことの必要性。



（前略）偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童又は生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。 学習指導要領解説総則編（P. 250）

単元を通して子どもに身につけてほしい力をつけるためには？

R7年度の研究テーマ

### 具体的な取り組みの方法

1. 子どもたちに“身につけてほしい力”を明確に持ち、学年単位で、やってみたい授業について検討。（夏季休業中）
2. 単元計画、指導略案の作成。
3. 単元の実施。（2学期）
4. 毎授業後に「メモ会」を実施。次時に向けた授業改善の検討。
5. 単元終了後、振り返りシートを記入。

単元実施中毎時間後、子どもたちの姿からチームで授業反省（メモ会）を行い、次時の授業改善につなげる！

自分から〇〇する  
力をつけたいな…

生徒からこんな提案が  
ありましたよ！



単元計画に基づいた授業実践後…

もう1時間  
授業を増やし  
ましょう！

先生の発問を受けて  
生徒が考えてましたね～

もう少し〇〇を  
ねらいたいな！

付箋について  
詳しく教えて！

【メモ会】

授業の都度変わっていく、生きた指導案が作られる！

## 研修・実践

### 総合教育センターの指導主事来校

- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」に関する全体研修。(演習形式)
- ◆ 各学年で実施している授業の単元計画を持ち寄り、授業改善メモを記入。



全体研修の様子



## 研究の成果・先生方の声

抽象的な目標ではなく、具体的にどのような姿が見られたら目標達成なのかを事前に確認することが必要。

子どもの思考、心の動きを促す教材、視覚支援の工夫は必須！

授業でどんな力をつけたいのか、目標を明確にし共通理解しておくことが大切。

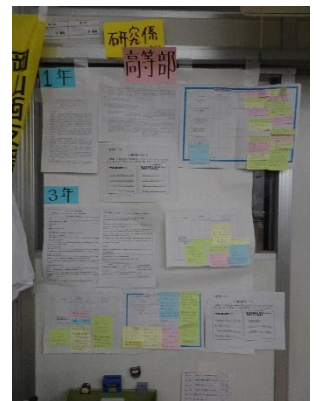
短時間でも授業後にチームで振り返れば、次時が充実する！

授業や単元の始まりに、必ず教科としての目標をチームで共有しておくことが大切！

子どもたちの実際の姿から評価をし、授業を改善していくことが必要。

ビデオ録画は授業改善においてとても有効！同じ視点を持ちながら見るができる。

付箋が授業改善の手軽なアイテムになった！



## 2年間のまとめ

1年目

- ◆ 教師の意図を持った手立て（心が動く工夫、考える工夫）により、その手立てが教科としての目標達成に有効だったのかを児童生徒の姿から考える → 評価することができた。

### ★単元を通して行う★

2年目

- ◆ 授業前⇒その授業（単元）で子どもに身につけてほしい力をチームでしっかりと共有する。
- ◆ 授業後⇒子どもたちの姿からチームで振り返りを行う。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善につなげることができた。